

## 旧筑豊鉱山学校所蔵文化財の保管・展示と教材写真 について

玉井, 昭次  
旧筑豊工業（鉱山）高校所蔵文化財を伝える会

<https://doi.org/10.15017/21906>

---

出版情報：エネルギー史研究：石炭を中心として. 27, pp.27-40, 2012-03-23. 九州大学附属図書館付  
設記録資料館産業経済資料部門  
バージョン：  
権利関係：

# 【調査報告】旧筑豊鉱山学校所蔵文化財の 保管・展示と教材写真について

玉 井 昭 次

## 第一部 旧筑豊鉱山学校所蔵文化財の保管・展示について

### 一・筑豊鉱山学校の歴史

筑豊鉱山学校は筑豊石炭鉱業組合が経営母体となり、鉱山技術者の養成校として北の秋田鉱山学校と並ぶ西日本の鉱山専門学校を目指し、大正八年一九一九に開校した。

昭和二十三年一九四八に財団法人筑豊鉱山高等学校と改称した後、昭和二十五年一九五〇に県立に移管され福岡県立筑豊鉱山高等学校となり、昭和三十六年一九六一に福岡県立筑豊工業高等学校に改称した。平成十七年二〇〇五に福岡県立鞍手竜徳高等学校に統合され閉校となった。

### 二・旧筑豊鉱山学校所蔵文化財の保管および筑豊高等学校資料室での一部展示について

筑豊鉱山学校の設立以来、福岡県立筑豊工業高等学校の閉校までに蓄積された石炭産業に関する多数の貴重な文化財（書籍・文書・写真・十六ミリ映画フィルム・機械器具・鉱物標本など）は閉校により散逸することのないよう、福岡県文化財保護課を経て現在は福岡県立九州歴史資料館（福岡県小郡市）で保管されている。

平成二十年二〇〇八に旧筑豊工業高校跡地に移転してきた福岡県立筑豊高等学校のご好意により、新校舎の一角に旧筑豊工業（鉱山）高校が所蔵していた文化財の一部を展示する資料室が設置された。

この資料室を管理し、来訪者への対応を行って後世に貴重な資料を伝えていくため、同年に「旧筑豊工業（鉱山）高校所蔵文化財を伝える会」が設立され、筑豊工業（鉱山）高校の同窓会である地光会の有志および趣旨に賛同する地元諸団体の有志により、毎週日曜日の午後が開館運営が行われている。

## 第二部 旧筑豊鉱山学校所蔵の教材写真について

### 一・九州大学記録資料館での保管とスライド化、アルバム化

所蔵資料のうち、教材として使用されたと推測される九百五十枚の写真は、移管に関する記録が現存しないため経緯は不明であるが現在、九州大学記録資料館・産業経済資料部門（旧石炭研究資料センター）に保管されている。

写真は紙でなく破損しやすいガラス板の状態では保存されていたため、研究・発表の便宜のため同館により全部スライドフィルム化され、併せて紙に焼き付けてアルバムに収納（全七冊）されている。本稿は同館から借用したガラス板・スライドフィルム・紙写真の三者を突合わせて整理し、リストを作成して内容を分析したものである。

### 二・教材写真の概容

#### (一) 写真の枚数

総数は九百五十枚であるが、表焼き（ポジ）のほかに裏焼き（ネガ）も含まれており、中には裏焼きのみで表焼きが存在しないものがある。

裏焼きの状態では重複している二百五枚を除いた純枚数は七百四十五枚である。

#### (二) 写真の状態

大部分は保存状態がよく鮮明であるが、中には汚損がひどくて全く見えないものや一部が汚損しているものがある。表焼きのほうは不鮮明で裏焼きのほうは鮮明なものもある。

#### (三) 写真の種類

##### ①写真（色付きおよび白黒）

カラーフィルムによる撮影が普及したのは昭和三十年代以降であり、色付きのものは白黒写真に手作業で着色したのではないかと推測される。明治初年にこうした着色写真が外国人向けに販売されていたことが記録されている。

##### ②絵（色付きおよび白黒）

文章が入っているものもある。

##### ③図面

英語やドイツ語の文章入りのものもある。

##### ④文章

説明文が中心であるが、和歌や漢詩もある。

#### (四) 教材としての幻燈機使用の可能性

一枚の写真では多数の生徒に見せるためには不適で、わざわざガラス板写真の形態で作成保存したのは幻燈機のようなものを利用した可能性があるが、機材および記録資料が存在しないため不明である。昭和十五年一九四〇卒（現在八十九歳）および昭和二十二年一九四七卒（現在八十二歳）の卒業生に質問したところ、「そうした視聴覚教育を受けた記憶はない」との回答で、戦中戦後の厳しい時期においてはそれどころではなかったのかも知れない。

教育現場での幻燈機の使用については、明治十二年一八七九の教育令発布以降、「視覚に訴える近代道德の教材の一つとして普及が図られた」、「師範学校に頒布された」などの資料があり、昭和になつてからも「視聴覚教材として本格的に学校教育に取込まれ、戦前

のプロパガンダや戦後の占領政策などでも重用されながら、昭和三十年代まで利用された」という記述がある。筑豊鉱山学校においても確証はないがガラス板写真を利用した幻燈機による視聴覚教育が行われていたのではないだろうか。

#### (五) スライド写真の現状

なお幻燈機の後に登場したスライド映写機に用いられるスライド(写真)とは、五センチメートル角程度の透過原稿であり、現像済みのリバーサルフィルムをプラスチックまたは紙製の枠(マウント)に入れたものである。

映像や図面を小さなフィルムに収めて利用・保管することができ、ため収納や携帯の便がよく、画面も鮮明なため学校教育や学会・講演会などで使用されてきたが二十世紀末からパソコンとプロジェクトによる映写に取って代わられた。

平成十六年二〇〇四にはコダック社がスライド映写機の生産をやめており、現在では資料館や学校でも保有していないところが多く、今回の作業でも映写機の確保に苦労した。

#### (六) 教材写真作成の時期

記録資料がないため不明であるが、作成時期を推理するための記述がいくつか存在する。

・昭和三年一九二八から開始された「全国安全週間」の行事が紹介されている。

・菊池庄吉(後述)に関する新聞記事の日付が昭和六年一九三二、手紙の日付が昭和八年一九三三、表彰状の日付が昭和六年一九三一。

・安全統計の対象期間が大正十年一九二一〜昭和五年一九三〇。昭和七年一九三二の上海事変関係の写真がある。

これらから推測して昭和一桁の末頃ではないかと思われる。昭和十二年一九三七以降戦時経済統制が厳しくなつてからは、こうした教材を九百五十枚も作成することは許されなかったのではないか。末尾のほうに昭和十三年一九三八の日付があるヒヤシンスの水栽培の写真があるが、これは例外的に後で追加されたものかもしれない。

#### (七) 写真の種類

大別すると次の通りであるが作成および保存の経緯は資料がなく不明である。

##### ①炭鉱における安全教育に関するもの

安全週間の行事紹介、安全教育資料(安全行動と不安全行動の対比など)、精神修養資料など内容的には学校教育ではなく炭鉱現場で使用されるべきものであり、筑豊石炭鉱業組合または大手炭鉱で作成使用したものを学校で保存したのかもしれない。坑内作業の描写は世界記憶遺産に指定された山本作兵衛翁の絵よりも近代的でリアルである。ドイツで作成されたポスターは極めて珍しい。

##### ②技術教育に関するもの

地層・鉱物など石炭に関するもの、削岩機・安全燈・炭車など炭鉱で使用する機械器具に関するもの、などで英語・独語の原書から複写されたものも多い。

##### ③一般教養に関するもの

修身・歴史・地理などの授業の補助教材の可能性がある。日露

戦争、上海事変（市街戦、爆弾三勇士など）、現代の海軍など軍事教育の教材の可能性がある。

赤穂義士、江戸時代の筑後の治水工事など紙芝居的な教材もあり興味深い。皇居・神社仏閣・各地の名所旧跡や観光地など絵葉書的なものも多い。

### 第三部 教材写真の内容について

教材写真の内容について、スライド写真の番号順に説明する（ガラス板写真の番号は連続性がなく、スライド写真の番号とは全く一致していない）。分類は本稿作成に伴うものでアルバムに記載されている分類とは異なる。なお表記は一部の固有名詞を除き新字体を使用している。

#### 第一章 炭鉱における安全教育に関するもの

##### 一 安全週間に関するもの

##### （一）安全週間行事（一〇七および一八）

###### 「色付き写真」

安全週間の緑門（学校の運動会の入退場門のようなもの）、小学生・家族・主婦会・処女会（当時の未婚女性の組織名）などの入坑者見送り風景、炭車と案山子、炭鉱夫の入坑風景、山の神様への安全祈願などが撮影されている。

・筑豊炭田学校のすぐ近くの筑豊炭田の炭鉱ではなく北海道の「夕張鉱」（のぼりの文字から判明）であり、菊池庄吉と第二代福田政記校長との関係（後述）から資料の提供を受けた可能性がある。

##### （二）安全教育資料（八〇十七）

###### 「色付き絵」

坑内での災害発生の状況が描かれている。

・文章で注意事項が記入されているものもある。

##### （三）裏焼き（十九〇二十六）

###### （一）および（二）の裏焼き。

・表焼きがないものもある。（以下にも存在するが、その都度の記載は省略する）

##### （四）安全教育資料（二十七〇五十七）写真①

###### 「色付き絵」

安全週間ポスター、坑内での災害発生の状況が描かれている。

・安全行動と不安全行動がわかりやすく対比されているものもある。

・右から横書きと左から横書きが混在している。（以下同じ）

##### 二 保安人の心得に関するもの（五十八〇六十八）

###### 「白黒文章」

保安人の定義と業務、保安人の心得に続いて、災害防止と炭鉱に関する和歌が書かれている。

・和歌の中には御製もある。明治天皇の作か。

・一部汚損により判読できないものもある。（以下同じ）

##### 三 菊池庄吉の安全活動に関するもの（六十九〇九十九）写真②

菊池庄吉（北海道炭礦汽船夕張炭礦の運搬夫兼支柱夫）の災害防止活

動を紹介している。

「新聞記事」（鉦山新聞・安全号、昭和六年一九三一・六月五日）

「手紙」（菊池庄吉から筑豊鉦山学校長福田政記への私信の末尾、昭和八年一九三三・一月十日）

・経緯は不明であるが、両者の関係から夕張炭鉦の安全活動に関する資料が学校に提供されたことが推測される。

「表彰状」（社団法人日本鉦山協会、災害防止研究会の組織と災害の防止への尽力に対する表彰、昭和六年一九三一・五月一日）

「人物紹介」

・菊池庄吉は当時四十九歳であつた。以下文章は現代表記に改めた。

『菊池君はこの仕事のため、自分の仕事を休んで作業場を回り、また一面相当の入費がいるけれども、一切他の助力を避け、すべて乏しい自分の懐から出し仲間と共同して専心災害防止に努力した。』（七十六）

『しかし初めは未だ菊池君の仕事の尊いことがわからぬ間は、一部の者から反感を買い「なんだ、余計なことを始めて偉ぶっている」とか「なに、彼奴らは会社の提灯持だ」なんて悪口を言われ、とかくとかく事業の遂行を妨げられた。』（七十七）

『いったい災害防止活動というようなことは、炭坑ばかりに任せしておくものではなく、我々が自発的にやらなければ、とても充分に効果を取めることはできぬ。それには先ず第一に労務者の注意を仲間の方で呼び起さねばならぬと考え、同志を募つて「最上坑右二坑道災害防止研究会」を創立した。』（七十八）

「災害防止研究会の活動内容の紹介」

・会社の安全管理体制が完全に整っていない当時の坑員による自主管理活動が紹介されていて興味深いので、全文を紹介する。

『（一）委員は毎週一方（注・一番方の方）自分の仕事を休み、自分の受持区域を回り、怪我人を出さぬように注意する。その他仕事の指導、援助をもする。』

（二）各委員は毎朝一遍通り必ず受持現場を回り、怪我人を出さぬように努め、またあれやこれやの指導をもする。』（七十九）

『（三）委員は常に傷薬、包帯等の応急治療材料を持って回り、負傷者に対する応急手当をする。』

（四）一カ月一度、委員会を開き、災害防止上の研究をする。

（五）会社の行く安全運動には、一緒になってこれを助け、災害防止の報告を一般に飲み込ませることに尽力する。』（八十）

『（六）自費で印刷機を購入し印刷物を一般従業者に配布し、災害防止についての注意を喚起する。』

（七）会長は負傷者を慰問し、かたがた負傷の原因を聞き取つて将来の参考にする。』（八十二）』

#### 四・災害防止研究会の資料（百〇百四十八）

明記されていないが資料の内容から判断して、前項の災害防止研究会の資料ではないかと推測される。

「色付き絵」

災害防止教育の資料として描かれている。

・落盤事故の発生とその後の展開が紙芝居形式で描かれ、登場人

物のセリフつきのものもあって説得力がある内容となっている。最後の絵は青空の下で花園に立つ若い夫婦が描かれ、ハッピーエンドとなっている。

### 五・坑山保安美談（百四十九〜百九十八）

明記されていないが資料の内容および次のグループが夕張炭鉱での安全活動に関するものであることから推測すると、菊池庄吉をモデルに作られたのかもしれない。

「色付き絵」および「白黒文章」

・大和武夫係員（注・安全指導を担当している職員か）と石山真人探炭夫の対話形式で展開する。結末は次の通りである。

『それから探炭夫石山はうって変わった真面目の男となった。仲間冷笑、悪口をもとめせず熱心に説き回った。その山に二十年もいるという立派な探炭夫も、彼の組に加わって頭株となってくれた。大和君が陰に陽に彼を援助したことはもちろんである。かくしていつか勝利の春が訪れた。全坑一致の自発的災害防止運動の勃興！今や彼は炭坑の勇士としてその名はわが国にあまねく知れわたるに至った。』

### 六・夕張炭鉱での安全活動（百九十九〜二百十八）

「色付き写真」

夕張炭鉱の全景、炭鉱の建物、坑口と坑夫たち、安全行事（女性の集会や仮装行列もある）、表彰式、会議、資料作成、炭鉱の設備などが撮影されている。

### 七・安全教育資料（二百十九〜三百四十二）写真③

「色付き絵」および「白黒絵」

坑内災害死傷者発生理由円グラフ（大正十年一九二一〜昭和四年一九二九および大正十年一九二二〜昭和五年一九三〇）、安全教育の有無による結果の対比、坑内での災害発生状況（文章が入っているものが多く、安全行動と不安全行動を対比したものもある）などが描かれている。

・「雷管を締めるときは歯で噛むな、雷管鋏でせよ」などと具体的に書いてあって面白い。

円グラフの一つを数表で表わすと次の通りで、落盤による死者が圧倒的に多い。

福岡鉱山監督局管内石炭山坑内変死者数および割合（大正十年〜昭和五年の一年平均）

原因	死者数	割合
落盤	三二五人	六二%
炭車	一〇二人	二〇%
爆発	二二人	四%
発破	六人	一%
その他	六八人	一三%

### 八・安全運動資料（三百四十二〜三百五十九）

「白黒文字」（漢詩もある）

安全施設・自発的災害防止運動（車輪の絵あり）、保安能率の樹（樹木に文字が書かれた絵あり）、安全運動のスローガン、係員の任務、保安の方法、などが書かれている。

・災害で死亡することは「天皇陛下に不忠」「国家のため損失」「一身一家の不幸」などであり、当時の時代風景が感じられる。「日本精神」という死語もある。

九. 安全運動ポスター（外国人）（三百六十〜三百九十一）写真④

「色付き絵」

坑内作業および機械作業での災害発生状況が表情もリアルに描かれている。

・日本語の文章がついているもの、外国語（ドイツ語）のままのものもある。

・入手経路は不明であるが、戦前の輸入ポスターというのは極めて珍しい。

十. 安全教育資料（三百九十二〜四百二十八）

「白黒絵」

坑内作業の注意事項が安全行動と不安全行動の対比形式も含まれて描かれている。

十一. 精神修養資料（明るい世界と暗い世界）（四百二十九〜四百四十七）

「白黒絵」

家庭と職場生活の中での心がけが対比して描かれている。

・結論が「自発的運動（保安と能率・精神修養）」「労使協調」であるところに安全運動の背景が表われている。写真⑤

・最後の締めが「大日本帝国万歳」「天皇陛下万歳」であるところ

ろに当時の時代風景が感じられる。

十二. 精神修養資料（山の神様との対話）（四百四十八〜四百六十九）

「白黒絵」

山の神社に参拝して勝手なことを神頼みする人々に対する山の神様の回答が描かれている。

・「よい運が回ってきますように」、「よい男を亭主に持ちますように」、「亭主の病気がよくなりますように」、「あの娘とそわめますように」、「息子がカフェー遊びを止めますように」、「亭主が坑内で怪我をしませぬように」、「お父さんがよくなりますように」。死ぬと貧乏になるからあの人（注・彼氏のことか）は私を捨ててしまいます。」「怪我人を出して今日たいへん叱られてしまいました。首を切られぬようにお助け下さい。」と願いが続く。

・最後は「我事を忘れて人のため世のために尽くしたいと決心しました。どうかお助け下さい。」という殊勝な願いに対して神様が「フーン今の世の中に奇特の至りだ。ヨシ今から八百万の神達に電報打ってキット助けてやる。」とユーモラスな回答である。

第二章. 技術教育に関するもの

一. 炭鉱の写真（四百七十〜四百七十八）

「白黒写真」（すべて裏焼き）

坑口とボタ山、山の神社の鳥居、人車に乗る坑夫たち、鉄道線路、建物、坑夫と家族、器具の点検などが撮影されている。



「白黒写真」(表焼き)

三菱高島礦業所端島坑の九階建住宅と全景が撮影されている。

・当時は最新鋭の炭鉱設備として注目されていたのであろう。

二. 炭鉱機械器具の写真(四百七十九〜四百九十二)

「白黒写真」

電動機、安全燈、プラグ、安全燈の炎の状態などが撮影されている。

三. 採鉱法に関する図面(四百九十二〜五百八)

「図面」(すべて裏焼き)

カタリナ炭坑の混合充填法、フェルゼン炭坑の片磐向き単面長壁法、プロスパー炭坑の昇り向き単面長壁法、タタバンヤ炭坑の清浄池、フェルディナン炭鉱ドリカード鉱の給砂装置など外国炭鉱の図面のほか、採掘法・地層の図面。

・採掘法の教科書から複写したものかと思われる。

四. 機械類の図面(五百九〜五百四十六)

「図面」(すべて裏焼き)

(一) 電動機、蓄電池機関車、架空線式電車、ポンプ、削岩機の先端などの立体図。

(二) 炭車の車輪など機械類の平面図。

・機械工学の教科書から複写したものかと思われる。

五. 数表(五百四十七〜五百五十四)

「数表」

鉄管内の流量および損失図表、グラフ、低圧の飽和蒸気に関する表、飽和蒸気の表、災害事変統計表(大正十四年一九二五〜昭和四年一九二九・福岡鉱山監督局)、ガス炭塵爆発統計表(大正九年一九二〇〜昭和四年一九二九・福岡鉱山監督局)、爆発と時間との関係、ガス爆発原因・責任別統計表(大正十年一九二一〜昭和五年一九三〇)

・福岡鉱山監督局作成の統計表である。

六. 地質関係の図(五百五十五〜五百七十二)

「図面」および「白黒写真」(すべて裏焼き)

石炭に顕われた年輪の図(初代校長山田邦彦博士の名あり)、地層の露出、地層の図、木曾川の寝覚めの床、古代の森林の絵図、玄武岩の柱状節理(朝鮮)、砂岩の柱状節理、地質用羅針盤、地層図、妙義山の第二石門、世界地図と大褶曲面などの図および写真。

・地質学の教科書から複写したものかと思われる。

七. 機械および器具の図面(独文)(五百七十二〜六百十二)

「図面」および「白黒写真」数枚

・すべて裏焼き、文章はドイツ語。

(一) 炭鉱の写真、鉱山機械の写真、炭鉱と地層の全体図、炭車・削岩機の先端・石炭箱・安全燈などの立体図。

(二) 機械器具類の平面図

・ドイツ語の炭鉱、機械工学の教科書から複写したものかと思われる。

「結晶の図面」

・すべて裏焼き、文章は英語。

八．絵図（独文）（六百十三〜六百十七）

「絵図」

・すべて裏焼き、文章はドイツ語。

古代の森林（石炭の原材料）、人骨の化石、中世の作業風景（馬および人力）

・ドイツ語の教科書から複写したものかと思われる。

九．機械および器具の図面（英文）（六百十八〜六百七十二）写真⑥

「図面」および「白黒写真」数枚

・すべて裏焼き、文章は英語。

(一) 電動機・機械器具・測量機械・安全燈などの立体図。機械の写真。

(二) 機械器具類の平面図

・英語の機械工学の教科書から複写したものかと思われる。

十．数表（六百七十二〜六百九十四）

「数表」

・一枚を除きすべて裏焼き、文章は英語。

・表焼きの一枚には数表の下に流水の絵図がある。

十二．その他図面（七百二十〜七百三十）

「各種の図面」

・すべて裏焼き。

(一) 日本周辺の図面、逆断層・正断層の図面、貝殻の絵図

・文章は英語。

(二) 図形、機械の立体図および平面図、二人で作業中の写真、和同開

○（珍の俗字）の写真

十三．火薬実験写真（七百三十一〜七百五十四）

「火薬の爆発実験の写真」

・すべて裏焼き。

十四．その他（七百五十五〜七百六十六）

「土質の写真」

・すべて裏焼き

土、円筒形の土に硬貨を刻印、土器など。

十一．結晶図（六百九十五〜七百十九）

### 第三章 一般教養に関するもの

#### 一・軍事資料

(一) 日本陸軍の歴史に関する資料(七百六十七〜七百七十五) 写真⑦

「色付き絵」

日露戦争・奉天入城図(出典・明治神宮聖徳記念絵画館壁画)。

「色付き写真」

昭和時代・出征兵士を駆で送る家族、時代不明・氷結せる遼河を渡る部隊、日露戦争・旅順戦の後に水師營で会見する乃木將軍とステッセル將軍、日露戦争・奉天に集結した二元帥(大山・山県)六大將(児玉・黒木・奥・乃木・野津・川村)、時代不明・騎兵の雪中突撃、昭和時代・鉄道守備隊の活躍、昭和時代・歩兵の突撃。

(二) 日本陸海軍の現状に関する資料(七百七十六〜七百八十七)

「色付き写真」

・上海事変(昭和七年一九三二)に関するものと思われる。

兵火にかかる民家(陸軍兵士が見える)、塹壕内で休息する陸軍兵士、突撃する陸軍兵士、上海市街戦の海軍陸戦隊兵士と軍用車両、上海の埠頭、機関銃射撃する陸軍兵士。

雪中に活躍する騎兵伝令および民家屋上の機関銃の写真については防寒服装をしており、あるいは前年の満洲事変の可能性もある。

「色付き絵」

・近代の海戦を説明するものと思われる。

海上の軍艦と上空を飛行する複葉機、海上の軍艦と上空を飛行

する飛行船・航空機。

(三) 上海事変の肉弾三勇士に関する資料(七百八十八〜七百九十三)

歩兵の突撃路を開くため敵陣に爆弾筒をかかえて突入し自爆して当時大きく報道された肉弾三勇士を紹介するもの。

「色付き写真」

北川・作江・江下の三伍長(戦死後特進)の肖像。

「色付き絵」

敵陣に迫る三勇士を描いたもの。

・筑豊鉱山学校における軍事教育の参考資料として使用された可能性がある。

#### 二・赤穂義士

・今日と違って当時は誰でも知っていた赤穂義士のストーリーを紙芝居的に作成したもので娯楽的要素が強い。入手作成経緯は不明だが修身の時間の教材として使用された可能性がある。

(一) 「色付き絵」(七百九十四〜八百十一、丸形と四角形がある)

「赤穂義士」と書かれたタイトル、江戸城内松の廊下での浅野内匠頭の吉良上野介への刃傷(本伝)、負傷した吉良上野介(本伝)、田村邸で切腹へ向かう浅野内匠頭を見送る片岡源五右衛門(本伝)、浅野内匠頭の切腹(本伝)、赤穂城へ急ぐ早駕籠(本伝)、協議する大石内蔵助ら浅野家家臣(本伝)、祇園一力茶屋で遊興する大石内蔵助(本伝)、大石内蔵助に近づく村上喜剣(本伝)、大石内蔵助と長男主税(本伝)、手紙を読む大石内蔵助(本伝)、槍の名人俵屋玄蕃と蕎麦屋に変じた杉野十平次(義士銘々伝)、

橋の上で俳人宝井其角と会う煤払い売りに変じた大高源吾（義士銘々伝）、東海道で人足にからまれるが耐える神崎与五郎（義士銘々伝・神崎東下り）、商人に変わって大工の娘から吉良邸の図面を入手する岡野金右衛門（義士銘々伝）、大根売りに変じた勝田新左衛門と妻の父大竹重兵衛（義士銘々伝）、浅野内匠頭未亡人瑤泉院に暇を告げる大石内蔵助（本伝・南部坂雪の別れ）、吉良邸討入り（本伝）。

(二)「色付き写真」(八百十二〜八百十八)

大石内蔵助旧邸長屋門（赤穂市）、泉岳寺中門、泉岳寺の赤穂義士墓所門、赤穂義士墓所、大石内蔵助墓碑、天野屋利兵衛墓碑（泉岳寺義士墓所門前）、義士木像（泉岳寺）。

三. 五庄屋の話（水路工事）

・農業用水確保のため筑後川の水を引く灌漑工事を遂行した筑後浮羽郡の庄屋たちの話を紙芝居的に作成したもので教訓的要素が強い。修身の時間の教材として使用された可能性がある。第二代福田校長の出身地での出来事であり、その関係から入手作成された可能性がある。

(一)「白黒文章」(八百十九〜八百三十五、丸形と四角形がある)

「村の生命」と書かれたタイトル、五人の庄屋の氏名紹介と目的、五庄屋の行動、水路沿岸諸村の反対、反対庄屋との対立、誓詞判、他庄屋の加入申込と大庄屋の斡旋、工事起工、工事中の故障、五庄屋の悲壮の大決心、第二期工事、村人の美談、工事完成、和歌と漢詩、五庄屋藩府の恩賞を辞す、神社建立と五庄屋・郡奉行

に贈位、五庄屋の事蹟より学ぶべきこと。

(二)「色付き絵」(八百三十六〜八百七十五) 写真⑧

水勢逆流す、五庄屋の寛懷、郡奉行の検見、五庄屋と沿岸庄屋との対話、大庄屋の調停、五庄屋の血判、五庄屋の実地測量、水路工事場（一）、水路工事場（二）、水路工事場（三）、人夫召集の図、工事落成（一）、工事落成（二）、五庄屋の恩賞拝辞、五庄屋の追賞（明治四十四年一九一一従五位の贈位と水神社への合祀）。

(三)「図面」(八百七十六〜八百八十)

筑後川流域図（久留米東部）、浮羽郡と朝倉郡の境界の大石井堰および水道の図面、長野井堰および水道の図面。

(四)「色付き写真」(八百八十一〜八百八十六)

浮羽郡大石水道口全景、浮羽郡大石の筑後川大堰全景、浮羽郡長野の水神社。

四. 通潤橋の架設者布田安之助（八百八十七〜八百九十二）

・前項と同じ治水工事に苦心した修身教材として使用された可能性がある。

「白黒文章」

責任観念・通潤橋の架設者布田安之助翁の事蹟。

「色付き写真」

布田安之助翁の顕徳碑、通潤橋からの放水。

五. 全国各地の名所（八百九十二〜九百十三）

・地理の教材として使用された可能性がある。

「白黒文章」

日本三景（タイトル・写真はなし）、国立公園（タイトル）。

「色付き写真」

海岸の海女（場所不明）、雲仙岳躑躅畑（長崎県）、五郎ヶ滝（通潤橋のすぐ下流、熊本県）、十和田湖（青森県）、奥入瀬溪谷（青森県）、吉野山（奈良県）、滝（場所不明）、沈墮の滝（豊後のナイアガラ、大分県）、島原海岸（長崎県）、宮城二重橋（東京都）、靖国神社？明治神宮？の鳥居（東京都）、神社（場所不明）、池と橋（場所不明）、香椎宮（福岡県）、太宰府神社本殿・神橋・神木飛梅（福岡県）、水前寺公園（熊本県）、熊本城（熊本県）、泉岳寺義士館（東京都）。

第四章 その他（作成目的不明）

・教材とは思えず、個人的なものがなぜガラス板写真として保存されたのか謎である。

一、家族の写真（九百十四〜九百三十三）

二、その他雑多（九百三十四〜九百五十）

通信大臣野田卯太郎の色紙、老母から五十歳の息子への手紙、御製の和歌、政治家床次竹二郎の色紙、水栽培のヒヤシンスの写真（昭和十三年一九三八）、正座した武士の絵、港と汽船の写真、漏電による発破の災害図、家族の写真、乗馬武人の彫刻、「をわり」の文字。

以上

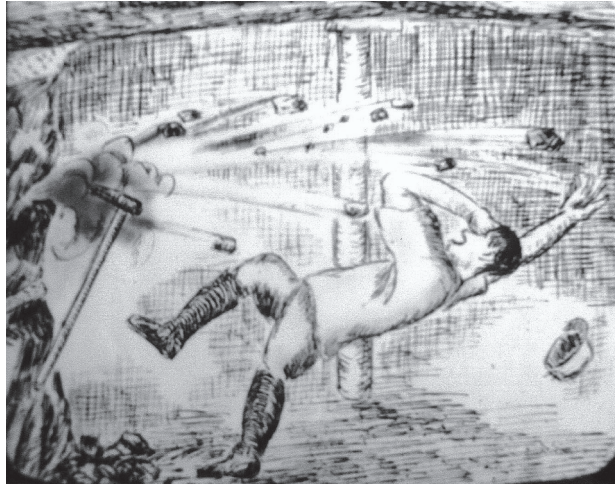
写真① 安全週間のポスター（災害を防止せよ）



写真② 菊池庄吉の表彰を伝える新聞記事（鉾山美談）



写真③ 坑内での災害発生状況（爆発）



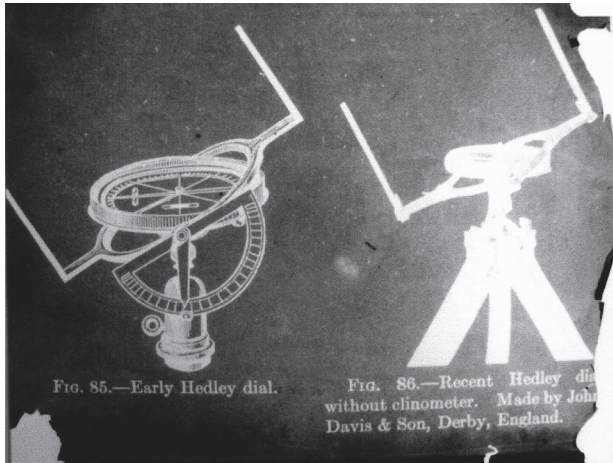
写真④ 外国の安全ポスター（ドイツ語）



写真⑤ 安全活動の結論（自発的活動と労使協調）



写真⑥ 測量器（坑内で使用するもの）



写真⑦ 明治三十八年七月、奉天に集結した二元帥六大将  
(右から川村・児玉・乃木・奥の四大将、大山元帥・山県元帥、野津・黒木の二大将)



写真⑧ 五庄屋の話・大庄屋の調停（色付き絵）

